



その後、パネリストの皆さんによるクロストークが行われ、旧大谷公会堂の活用について次のような意見が出されました。

長より、「法的解釈によれば、現行法の適用除外になるのは移築保存を行った国の重要文化財で、登録有形文化財は例外を除いて該当しない。現状保存で活用する場合でも、現行法に近づける改修をどれだけ出来るのか協議が必要である」と言う行政の見解が紹介されました。今後活用について粘り強く検討して行きたい旨の提言でシンポジウムは終了となりました。

# 徳次郎・西根地区 石蔵等集積集落の調査を終えて

NPO法人 大谷石研究会 (景観整備機構) 石蔵集落調査グループ リーダー 塩田 潔

10月13日(土)、私たち、石蔵集落調査グループは、徳次郎・西根地区の石蔵等の調査を、宇都宮市より「景観整備機構」の指定を受けたのを機会に、宇都宮大学工学研究科の安森研究室と協働で行いました。

当大谷石研究会では、5年程前に大谷石建築の文化的価値を大成した写真集「大谷石百選」を刊行する等、大谷石の文化の再評価、大谷石産業の復興等を目指し、様々な情報発信や活動を行ってきましたが、これからの5年間はさらにステップアップを目指し、宇都宮独自の景観を呈している街道筋の石蔵等集積した集落の保存と修景の推進活動をひとつのテーマとして

ていきたいと思っております。 今回の西根地区の調査は、その第一歩であり、次には田原街道上田原地区、旧栃木街道西川田地区、白沢街道竹林地区等順次石蔵等集積した街道を調査記録していく予定です。記録保存はもとより、その地域に合った修景計画や文化的価値、重要伝統的建造物群保存地区や助成制度の検討、観光的な観点も含め行政体と共に全国に誇れる「宇都宮」としてブランド力アップを目指していきたいと思っております。 私たちにとって、大谷石のある風景は日常的で当たり前の景観ですが、外部からの評価はかなり高いものがあります。特に西根地区のような集落は



石蔵集落調査グループ。佐藤公紀班長、武井貴志班長、安森亮雄班長の3班に分かれて調査しました。

全国的に見ても極めて稀な建造物群であり、十分に「重伝建保存地区」に値すると評価する専門家も少なくありません。 調査に当たっては、西根地区の人たちが全面的に協力していただき、大変感謝しております。そして、それぞれに所有されている石蔵や石造りの住まいに誇りと愛着を持っており、それがこの景観が今日まで守られてきた所以であろうと思っております。 調査当日はすばらしい秋晴れに恵まれ、総勢17名のメンバーが早朝より3班に分かれ、平面・立面の測定記録、石の種類や構造の種類、ヒアリング調査等、一軒、一軒丁寧に調査に当たりました。大変な作業ながら、メンバー一同楽しみなが充実した一日を過ごすことが出来ました。 ぜひとも、これらの石蔵等集積地が今後保存され、修景され、地元にとっても私たち宇都宮市民にとっても、誇れる景観として輝き続けて欲しいと願っています。私たち調査グループに

# 未来に響け「石の声」シンポジウムvol.2

(一面からのつづき)

「ここ、つづのみや街づくり推進機構の大岡事務局長より、推進機構が市から買い取りレストラン事業者に賃貸している旧公益質屋の事例が紹介されました。会場からは、「現在の道路状況のままでは歩道もなく危険である。現状での保存活用は無理ではないか」「昔この場所が無声映画を見た思い出がある。また活用されればうれしい」「近くに住んでいるが中に入ったのは今回が初めてで、保存活用について地元の人の認識と愛着を育てるためには地元の人たちが清掃活動を行う事から始めるのが良いのではないか」等々の意見が出されました。

登録有形文化財「旧大谷公会堂」の保存活用をテーマにしたもので、(財)建築技術教育普及センターの助成対象事業として行われました) ※シンポジウム関係は当HP・ブログで紹介中



■午前の部は大谷駐車場集合して、現在石を採掘している石の里、希望の地下探掘場(地下50m)、大谷の代表的な「屏風岩」「大久保家の石室」「渡辺家住宅」を見学

の保存活用をテーマにしたもので、(財)建築技術教育普及センターの助成対象事業として行われました) ※シンポジウム関係は当HP・ブログで紹介中

「ふくしまそつまの子どもたちがえがきたいせつな絵展」を6会場で開催しました。《報告》

東日本大震災直後の昨年4〜6月、当会有志による福島県相馬市松川浦への支援活動の「緑」が幾重にも繋がり、今回の宇都宮での開催が実現しました。



6カ所の会場で150点の絵を展示することができました。これは全国各地で開催された中でも最大・最長の規模です。

- ◆悠日カフェ (10/20~11/18)
◆カフェギャラリー袖 (10/21~11/17)
◆HACHINOJO (10/21~11/18)
◆宇都宮市役所 (11/5~11/9)
◆オリオンACぶらざ (11/5~11/11)
※11/10・11日は西地区の子どもたちと絵画のコラボ



佐藤信明作ポスター

10月27日には、相馬から今回の絵の制作に大なる役割を果たした佐藤史生氏(元小学校校長)が現地津波の映像を交えながら現況についてお話をいただきました。 各会場併せて2000人以上の参観者に好評を博し、多くの感想(当HP・ブログで紹介中)も寄せられました。用意した冊子も完売されました。子ども文庫の売り上げおよび募金も寄せられ、相馬に設立された「子ども文庫」の運営の一助にと送付することができました。 搬入搬出および参観にご協力いただいた会員の方々に深く感謝申し上げます。

## 大谷石 東西南北

### 神戸のカフェを彩る大谷石

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 平沼 隆志)

神戸市東灘区に大谷石を装飾に使った、しゃれたカフェがあるようだ。「ようだ」というのは実物を見ていないため。申し訳ありません。最近、神戸を旅したが、寄る時間が無かった。グーグルで「神戸」「大谷石」を合わせて検索したところ、オーナーらしき人のブログに行き当たった。同氏はフランク・ロイド・ライトが設計したヨドコウ迎賓館(兵庫県芦屋市)を見て大谷石に魅かれた。大谷石資料館に電話を入れて紹介してもらった石屋さんと、小さくカットした内装用の大谷石を知ったそうだ。ライトの縁で生まれたチャンスを石屋さんの企画力が結実させたわけだ。

ネットでカフェの写真を見ると、大谷石がアクセントになっている。ファッション性の高い街、神戸で大谷石が親しまれている。

今回の旅は神戸マラソン出場が目的だった。来年も出場して、このカフェを訪ねてみたい

NPO法人 大谷石研究会公式ホームページが、アドレスもかわり全面リニューアル http://www.ooyaishi.org/ コンテンツ盛りだくさん 大谷石研究会とは・大谷石の歴史と魅力・全国の石蔵の建造物・最近の使用例・石蔵や大谷石の活用例・大谷石の工法と保存・活動報告・ブログ・会報誌(バックナンバーがダウンロードできます)

## 全国特定ホテル・旅館の宿泊予約 貸切観光バスのご予約



### 全国の巡礼の企画先達案内

### (有)坂東受注センター

〒321-0345 宇都宮市大谷町1160 TEL 028-652-0111/FAX 028-652-3134

## 「ガ・ファーストデビューキャンペーン」



### ニッポンに、新しいプレミアムチェアを。

ひたむきに走り、この国の今をつくってきた。走りつづけ、この国の未来をつくっていく。すべてを忘れて安らぐ時間は、そんな人たちにこそ必要だから、カリモクの、いや日本の技術で、全く新しい椅子をつくろう。日本人の身体を、暮らし方を、そして感性を見つめ続けていなければつくれない一歩を。

## カリモク家具

カリモク家具宇都宮営業所 宇都宮市横田新町23-3 ☎028-(653)7082

販売・商品開発 有限会社 KANEHON 販売・商品開発 有限会社 KANEHON 〒321-0345 宇都宮市大谷町 350 番地 TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192

責任とサービスをモットーに! SUZUWA ビル総合管理 株式会社 鈴 和 http://www.suzuwa.info/ 本社・営業所 本 社: 〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田6-4-37 TEL.028-658-9111(代) FAX.028-658-9105 福島営業所: 〒960-8031 福島県福島市栄町6-6 NBFユニックスビル3F TEL.024-522-0397(代) FAX.024-521-1188 仙台営業所: 〒981-0911 宮城県仙台市青葉区台原1-10-7 TEL.022-274-1112(代) FAX.022-274-1081